

プロポーザルによる受託候補者選考結果票

以下の業務について、プロポーザルにより選定した受託候補者と契約締結したので、選考結果を公表いたします。

1 対象業務

業務名	会津若松市庁舎整備設計業務委託		
委託期間	令和2年7月10日～令和4年10月31日	担当課	企画調整課庁舎整備室
契約の相手方	梓・白井設計共同企業体 代表 株式会社 梓設計 東北事務所 株式会社 白井設計	契約締結日	令和2年7月10日

2 提案等の審査結果

審査日	提案書審査	令和2年7月6日	ヒアリング審査	令和2年7月6日
選考委員名	<ul style="list-style-type: none">・市岡 綾子 (学校法人日本大学工学部 専任講師)・菅家 登 (会津若松市財務部 公共施設管理課長)・小林 正一 (会津若松市区長会)・棚木 ひろみ (会津若松市企画政策部 企画調整課協働・男女参画室長)・堤 洋樹 (公立大学法人前橋工科大学工学部 准教授)・速水 清孝 (学校法人日本大学工学部 教授)・福西 敦子 (会津若松市景観審議会) <p>(五十音順、敬称略)</p>			
審査方法	<p>審査は、1次審査及び2次審査の二段階方式にて行った。</p> <p>1次審査は、書類審査による客観評価を行い、参加企業5者の全てを2次審査参加企業として選定した。</p> <p>続く2次審査では、1次審査で選定された5者が代表となり、それぞれが市内設計事務所との間で組織した共同企業体によって作成、提出された審査資料と提案のプレゼンテーション、並びにヒアリングにより、選考委員7名全員が提案内容を確認した後、各委員が評価要領に基づいて個別に提案に対する評価を行った。</p> <p>その結果、選考委員7名のうち、過半数を超える委員から最高順位を得た提案者がいなかったため、全委員の評価点の合計得点が最高となった提案者を受託候補者として選定した。また、次点となった提案者を次点候補者として選定した。</p>			

各提案者の2次審査の提案に対する講評は以下の通りである。

なお、1次審査において、提案者は、5者ともに、建築や歴史的な建造物の保存等に関する設計の経験、実績が豊富で、極めて高い技術力を有することが確認されており、以下はそれを前提とした記述である。

最優秀者（受託候補者）： 梓・白井設計共同企業体
代表 株式会社 梓設計 東北事務所
株式会社 白井設計

旧館の外観意匠の特徴を踏まえつつ新庁舎との調和を考慮することで、景観の統一感の獲得と庁舎のシンボル性の実現を目指した提案である。

庁舎検討懇談会の意見書で示された、市民と観光客が集う「みんなの庁舎」がイメージでき、また、スマートシティを推進する本市の特色を踏まえた会津大学等との連携、旧館保存検討の組織、地元産木材の活用など、提案者の本市に寄り添おうとする姿勢と意欲を感じる提案として総合的に高く評価された。

優秀者（次点候補者）： 安井・山口設計共同企業体
代表 株式会社 安井建築設計事務所 東京事務所
株式会社 山口設計

旧館の保存改修グレード確定の手法、旧館と新庁舎の間に生まれるスペース（みんなの広間）の外部空間との連続的な活用法や冬季の利用への配慮、休日の利用や災害時の機能的な対応などの点で、丁寧な提案と評価された。また、旧館の保存に関する法規制面を踏まえた新たな提案や、感染症対策に配慮した庁舎換気システムなど細やかな提案もあった。

評価項目に即して述べれば、総じて「旧館保存の手法」に対しては高く評価されたものの、「業務品質管理の方針」についての評価が得られなかった。

最優秀者及び優秀者以外： A共同企業体

低層化や気候を踏まえ壁面を増やした建築の提案は、本業務に対する理解度の点で、また、設計JVにおける市内設計事務所の活用法や、幅広い市民の生の生かし方などにうかがえる、市民とともに新庁舎をつくろうとする姿勢の点でも評価された。

評価項目に即して述べれば、総じて「業務品質管理の方針」については評価されたものの、「設計コンセプト」についての評価が得られなかった。

最優秀者及び優秀者以外： B共同企業体

新庁舎の執務空間におけるウェルネスな視点の採用、旧館内を有効活用する耐震コアによる補強や、旧庁舎の外観の保存再生に向けた手法の提案など、コストも視野に入れながら斬新でかつ具体的な提案と評価された。

評価項目に即して述べれば、総じて「旧館保存の手法」に対しては高く評価されたものの、「業務品質管理の方針」についての評価が得られなかった。

最優秀者及び優秀者以外： C共同企業体

旧館と新庁舎を最小限の渡り廊下でつなぐことで旧館のシンボル性が強調された提案である。また、新庁舎のデザインのモチーフに会津木綿を取り入れるなど会津らしさも表現され、全体として調和が図られた提案と評価された。

評価項目に即して述べれば、総じて「敷地のゾーニング計画」に対しては高く評価されたものの、「旧館保存の手法」についての評価が得られなかった。

3 選考結果

区分 (配点)	評価項目	評価点				
		安井・山 口設計 共同 企業体	A 共同 企業体	B 共同 企業体	C 共同 企業体	梓・白井 設計 共同 企業体
取組体制 説明書	ア 本業務に対する提案者の 取り組み方針	28	29	29	28	30
	イ 各業務担当チームの体 制と特徴	26	28	27	26	30
	ウ 業務上配慮する事項	56	54	52	58	58
小 計		110	111	108	112	118
技術提案書	特定テーマ1 ア 設計コンセプト	124	104	116	112	124
	特定テーマ1 イ 敷地のゾーニング計画	116	112	112	124	112
	特定テーマ2 ウ 業務品質管理の方針	96	116	108	112	124
	特定テーマ2 エ 旧館保存の手法	120	104	120	104	112
小 計		456	436	456	452	472
合 計		566 点	547 点	564 点	564 点	590 点
		700 点中	700 点中	700 点中	700 点中	700 点中
最高採点者数		2 人	1 人	1 人	0 人	3 人
		7 人中	7 人中	7 人中	7 人中	7 人中

※ 各参加者は受付順に記載しています。評価点は、審査項目ごとの審査委員の合計点です。